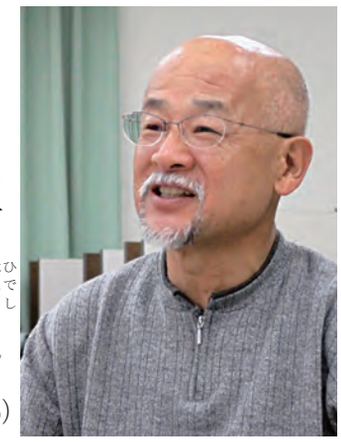
輝く２人が対談
まちで噂の人気者 Part6

文化の伝承者



中村 秀司（ひでし）さん (56)

平成18年から、県無形民俗文化財指定の福田の獅子舞い保存会の会長を務める。

大本 護（まもる）さん (59)

平成３年から、県無形民俗文化財指定の忠海町祇園祭みこし行事の祭領を務める。

伝統を次世代に

―忠海祇園祭、福田の獅子舞い。どちらも200年以上の歴史があるといわれていますが、どのようなお祭ですか。

大本 祇園祭は、「輿守（こっ）さん」と呼ばれる二十歳の子を主役として、町内をみこしをかついで練り歩きます。忠海伝統の成人式みたいなものです。

中村 福田町も子どもがメインです。その年に12歳になる子の太鼓に合わせて大人が獅子を舞います。

―親子で参加する人もいますか。

中村 いますよ。中にはお祖父さんが囃子（はやし）、お父さんが獅子を舞って、子どもが太鼓をたたく家族も。

大本 忠海も親子で参加している家庭もあります。

―課題はありますか。

大本 少子化が一番の課題。輿守さんが一人の年もあったんですよ。ですが、輿守さんを終えても祭りに参加するという意識が自然とできていて、助かります。

中村 うちもそういう意識があるといいですね。太鼓をたたいた子どもが、大人になって獅子を舞ってくれたらいいんですが、町から出て行く子も多くて…。

―やりがいを感じる瞬間は

大本 本祭りの夜、神社にみこしが入り、後片付けが終わって、輿守さんと「おつかれさん」と言葉を交わした時ですかね。

中村 無事に終わったときは安心しますね。あと、出る子どもが決まった瞬間は一番ほっとします。「今年も続けられる！」って。

大本 それはありますね。

―楽しいですか

大本 というよりも、好きですね。私は神社の近くに住んでいて、太鼓の音を聴いて育ったようなものですから。

中村 私は続けられることが楽しみとなっています。先輩が続けた伝統を自分の世代で終わらせたくない。どんな理由があっても、なんとか続けていきたいです。

―お祭りの最大の見所・魅力を教えてください。

大本 地域の人たちの協力と元気な若者が頑張っているところですかね。先輩が残してくれた伝統を若者が継承していき、その中で地域の人の協力を得ながら、一日の長丁場を終えることができています。

中村 ボタンの花にたわむれる獅子を表現した優雅な舞は、最初から最後まで見所。子どもと獅子の息がぴったり合って、動きがそろった時は本当にきれいですよ。

かぐやパンダとたまゆら

©2011 佐藤順一・TYA/ たまゆら製作委員会

人のうごき

（住民基本台帳登録者数）

人口	２８，９４９人
男	１３，６９３人
女	１５，２５６人
	１２，８９６世帯
１年前	２９，４３６人
５年前	３０，８７７人

－９月１日現在－

ティータイム

祝テレビ放送ということで、今月号は、「広報たけはら」改め「広報たまゆら」です。表紙は、町並み保存地区で笑顔の女子高生４人（と、ももねこ様）。私たちが住む竹原が、美しく、温かいということを再確認させてくれます。市民のみなさんは、どのように感じましたか？㋐

市政発展のためのご意見などをお寄せください

郵便　〒725-8666（住所不要）竹原市企画政策課「市長への私の提案」係　FAX　22-0998　※市ホームページ「市長の部屋」から電子メールでも送信できます。ご意見等は「市長の部屋・掲示板」にて公表させていただく場合があります。

発行／広島県竹原市企画政策課　☎(0846)22-0942　FAX(0846)22-0998
竹原市ホームページ http:www.city.takehara.lg.jp
PRINTED WITH SOY INK
（この広報は再生紙・大豆油インクを使っています。）